

2020年度 事業報告

1 事業概要

2020年度末の当センターの会員数は、1年間で31人が入会され50人が退会されましたので、結果、19人減って296人となりました。ここ数年の傾向と同様で徐々に減少しています。

この要因の一つとして、現役労働者の雇用延長や高齢者雇用安定法の改正により努力義務ではありますが70歳まで就業機会を確保するようになったことが大きな要因と考えられます。この結果、60代の加入者が減る一方、現会員は年々加齢することから、平均年齢は、昨年の74.6歳より0.1歳上昇し74.7歳となっており、病気・介護等の事由による退会も増えています。

事業実績として、請負事業は対前年度比で1,282万円の落ち込みとなりました。この要因としては、新型コロナウイルス感染症の関係でイベントが中止となり、それに伴う請負業務の減少が大きく影響したものと考えられます。

派遣事業は、継続受注により安定していましたが、年度末に一部の大規模商業店舗の改変に伴いその派遣業務が終了となり、その影響で約11万円の落ち込みとなりましたが、全体的には新型コロナウイルス感染症による大きな影響もなく、結果的には昨年と同等でした。

昨年度末頃に、新型コロナウイルス感染症による当センターへの影響を鑑み、前年度決算において次年度以降の補填に充てるため事務費において約300万円の剰余金を捻出しました。これは不測の事態に備えたものですが、2020年度決算はほぼ収支相償となりましたので、昨年度末の大規模商業店舗改変による影響が懸念される次年度にこれを充てていきます。

今回の業績悪化は、新型コロナウイルス感染症によるところが大きいものですが、会員の減少、高齢化による影響も無いとは言い切れません。

こうした運営状況の中、理事を中心とする各常任委員会で、それぞれ所管する業務の重点項目を中心に、課題に対する検討をしました。

加えて、更なる業績向上を目指すためには、女性会員の拡大と新たな事業への取り組みが必要と考え、女性部会を立ち上げ新たな事業開拓等に視察研修を重ねて検討しました。

また、経理事務においては、お客様の利便性などの向上を図るための「コンビニエンス支払い」を7月支払分から導入しました。現在、お客様の約3割以上の方が利用されています。

この「コンビニエンス支払い」の定着により、事務所窓口での現金支払いは、おつりを用意するのに両替手数料が必要になるなど、経営負担になることから今後取り扱わない方向で検討しました。

2 実施または計画した主な事業

○安全適正就業委員会

(1) 安全・適正就業の徹底

①安全就業の徹底

「安全はすべてに優先する」を念頭に、ヘルメットや安全帯などの安全装備の使用を徹底するとともに、新たな安全対策、事故防止器具の啓発に努めました。

会員の安全を目指した先進地視察は、コロナ禍で実施できませんでしたが、事故発生後の再発防止策の周知、安全パトロール・研修（3回実施）などの安全就業に取り組みました。

②適正就業の推進

多くの会員が公平な就業機会が得られるようローテーション化を図りワークシェアリングを進めるとともに、適正就業ガイドラインに沿った請負・派遣事業の説明や有料職業紹介事業も考慮に入れた適正就業の確保に努めました。

(2) 交通安全の推進

高齢者による交通事故が増加している中、個々の交通安全に対する意識が高揚するよう交通安全教室を予定していましたが、コロナ禍で実施できませんでした。

(3) 健康・衛生管理の徹底

会員の就業中の熱中症対策として、引き続き熱中症見舞金制度に加入しました。また、新型コロナウイルス感染症予防、健康診断の受診など、会員自身の健康・衛生管理に対する意識啓発のため健康講座を予定していましたが、コロナ禍で実施できませんでした。

○事業普及委員会

(1) 就業開拓の推進

①就業機会の拡大

高齢者の就業機会の拡大の観点から、愛知県シルバー人材センター連合会が開催する高齢者活躍人材育成確保事業を応援し、多くの方が事業に参加できるよう周知しました。

②普及啓発活動の推進

シルバー事業の理念や事業内容等について広く周知を図るため、高齢者生きがいセンターから離れた3地区（すいとびあ江南・宮田地区学習等供用施設・布袋ふれあい会館）で出張入会説明会（参加者15人）を開催しました。また、シルバーの日の清掃ボランティア（フラワーパーク江南）を催し、広く市民に高齢者の生きがいと地域ニーズの融合に取

り組みました。

他のイベントに参加し周知も計画していましたが、コロナ禍で中止となりました。

③福祉・家事援助サービス事業の推進

江南市が実施している、できる限り住み慣れた地元で暮らせるようにする「介護予防・日常生活支援総合事業」に、関係機関とも情報共有を図りながら、この総合事業の中の家事援助サービス事業に引き続き取り組みました。

(2) 独自事業の推進

①襖張り替え等独自事業

会員が独自に創出しました、襖・障子・網戸の張り替えに（就業延人数：590人）に取り組みました。

②新たな独自事業の開拓

会員の就労機会を目指し、新たな独自事業を開拓するため、先進地視察（桑名市）を計画していましたが、コロナ禍で中止となりました。

○会報宣伝委員会

(1) 会報編集等の実施

会員の活躍ぶり、総会など各会議や催しものの状況・雰囲気などが伝えられるよう取材に取り組み、1年間の活動内容がわかりやすく読みやすく目に留まりやすい会報の作成を目指しました。

また、今後利用者が増えていくホームページも新たな情報を掲載するなど情報の発信に努めました。

(2) アンケート調査の実施

高齢者の就業率の向上を図るため、全会員（309名）を対象に、従来の調査内容を見直してアンケート調査を実施し、その結果を全会員にお知らせしました。（回答率：37%）

また、お客様の満足度の向上に努めるため、任意に選んだ顧客100名を対象に顧客満足度アンケート調査を実施しました。（回答率：44%）

○総務委員会

(1) 組織体制の充実

①組織、規程等の整備

社会情勢の変化に速やかに対応するため、職員の給与など規程等の見直しを行いました。また、会員の会費の納入を円滑にするため納入期限を5月から6月にしました。

②指定管理の受託

会員の自主的な活動を支援するための高齢者生きがい活動センターの

施設管理を市から受け、効率的な指定管理運営に努めました。

特に、新型コロナウイルス感染症予防対策として、アルコール消毒液の設置、ウェブ会議の対応など施設の整備をしました

(2) 会員の資質向上・福利厚生の充実

会員やシルバー人材センターに対する期待と信頼性を向上させるため、また、会員の積極的な事業活動への参加を図るためポイント制度を始めました。他に、先進地視察を計画しましたが、コロナ禍で中止となりました。

(3) 相談事業の実施

市内高齢者の方の「生きがいつくり」の一助として、雇用・就業に伴う様々な相談を常時施設内で行い、アドバイスをしました。

当センターに入会を希望される方を対象に、説明会を毎月2回(第2・第4水曜日)実施していますが、来所された市民の方にはその都度、入会相談をすることにしました。ちなみに説明会は 回開催(参加者は延べ 名、随時相談 回参加者は延べ 名)でした。

また、交通弱者など当センターに来所できない方を対象に、出張説明会を草井地区(すいとぴあ江南:参加者7名)、宮田地区(宮田地区学習等供用施設:参加者2名)、布袋地区(布袋ふれあい会館:参加者6名)の3か所で実施しました。

○配分金検討特別委員会

一業務におけるグループの取りまとめをする会員に支給する連絡調整費の新設、最低賃金是正に伴う配分金等の見直しを検討しました。

※女性部会

(1) 活動方針

女性会員の拡大

女性ならではのお仕事・女性が得意とするお仕事の検討

(2) 活動内容

- ・愛知県シルバー人材センター連合会女性委員会と並行して活動
講話、大野市リモート視察など
- ・女性部会の愛称を公募
応募者数 109名 愛称「輝らり」
- ・尾張旭市シルバー人材センター視察
お墓の清掃・代理焼香など
- ・江南市長との懇談会
女性部会の活動報告及び支援要望
- ・お墓の清掃、代理焼香の実践研修